

みなさんこんにちは、いつも白衣の恵子先生です。

インフルエンザが猛威を振るっている今シーズンですね。感染症対策をしていても学校休業になってしまったのは寂しかったですね。やっぱり、学校でみんなと学べる環境があるって幸せなんですね。

さて、先日「壬生開拓の会」の皆さまが6年生を対象に出前授業をしてくださいました。とちぎTVやNHK630でも放映されましたが、6年生の感想を紹介しますね。

戦時中に国谷駅からおもちゃのまち幼稚園までが飛行場だったということです。どうしてかというと、そんな広大な敷地を使うほど、戦争は大きな戦いだったんだなどより実感できたからです。また、そんな広大な飛行場の敷地を開拓した人もとてもすごいんだなと思いました。

昔は谷だったと知りびっくりしました。理由は、今おもちゃ団地は、コストコができるすごく栄えているのに、前は谷だったり、飛行場だったりしていたことを知り、ここまで発展したことについてすごいなと思いました。また、こんなに栄えることが出来たのは、昔ここを工事してくれた人たちのおかげということを、講師の先生から聞き、工事してくれた人たちの思いを噛み締めながら、住んでいけるようにしたいです。

子供が戦争に協力するのは、いやいややっているのかと思っていたけど、国の役に立ちたいと思って自分から志願している人もいると知って驚きました。また、もともと谷があったところを埋めるのは、とても大変だったろうから、昔の人に感謝したいです。

こうじさんのお話が印象に残りました。自分も同じ12歳で最初はびっくりもしたし、12歳で飛行場に行ったのもすごいと思いました。

戦争当時の教育は、国のために命を惜しまず闘うことを教えていました。日本全体が戦争に勝つことが正義であるかのようだったのです。先生のおじいちゃんも兵隊として戦地に向かいました。情報部隊として、他の部隊に情報を伝えに行くのにボートを漕いでいると、空から爆弾が降ってきて、本当に死に物狂いだったと話してくれました。本当に恐ろしかったと。ミャンマーで撮った写真も見せてくれました。その歴史から目を背けてはいけません。苦しい時代を生き抜いてきた人達がいるからこそ、今の豊かな暮らしがあるのです。この睦小の周りの飛行場からどれだけの人々が命を落とし、家族が悲しみに暮れたのか。戦争が終わった後も、食べるるものも僅かな日々を歯を食いしばって開拓してきた人々が、未来の子どもたちに託した想いを想像できたらこそ感謝ですね。さらに、こんな感想も。

印象に残ったことは「おもちゃのまち駅」の名前の由来です。ここ、壬生町はおもちゃ団地が入ったため、「おもちゃ」の名前になることはわかってました。しかし、なぜひらがななのかがずっと気になっていました。他の駅ではこんなに長いひらがなの駅名はなかなかないからです。なぜ、「おもちゃのまち駅」は漢字でも「玩具の町駅」でもいいのに… そう思いましたが、昔の人々が駅名を作るときに、こどもたちのためだからひらがなにしていたんだとわかりました。そのお話を聞いたときには、確かに「玩具の町」より、「おもちゃのまち駅」のほうが、馴染みやすいなと思いました。

おもちゃのまちという地名にこだわりがあったことを知って、さらに愛着が湧いたのではないか?おもちゃのまち駅がガンダムやシルバニアファミリー、たまごっちなどのキャラクターでラッピングされ、さらに魅力UPしています。

昨日は4年生が、今日は3年生がバンダイミュージアムに足を運びました。その感想も聞かせてくださいね。睦小学校区の歴史を知ることが、この地に暮らす人々の想いを受け取ることにつながり、睦小学校区の今を知ることが、この地域の価値を知ることにつながり、

睦小学校区の未来を考えることが、この地域の資産をさらに磨くことにつながりますね。

学校運営協議会の方々も、家族のように親しく、より良くしていきたいとおっしゃっていました。そして、校長先生も「地域の皆さまが、うちの学校、うちの子供たち、みんなと一緒に良くしていきたい」と熱く語っていましたよ。そんな想いを受けて、みなさんがのびのびと自分の可能性を試すことができる学校になっていってほしいと思います。先人たちへの感謝の気持ちを大切にしながら。

それではまた来週。See you next week! Have a nice weekend!!

